臺灣日日新報 (木曜日) 第一万三千四百十五號 A (一)
(第二期) (原稿配達) (但一冊一年五月九日第三種郵便物認可) 昭和十二年七月二十九日

皇軍遂に起つ

我が空軍出動

壯絶な激戰を展開

暴風雨中に奮戰

目的を達し坂口部隊歸る

敵の退路を遮斷

北支事變費を滿場一致で可決

衆議院豫算總會

貴族院本會議

平和的解決を英米が希望

眼を南支に注げ

權益の侵害を警戒せよ

陸相參內

英國はソ聯とも接觸

米國

臺灣軍司令部發表

馮治安軍を攻擊

川岸、河邊部隊激戰

爆擊の目標

南苑で激戰か

安民布告

浮標のごとき女

號外發行

その日その日

中央軍前進

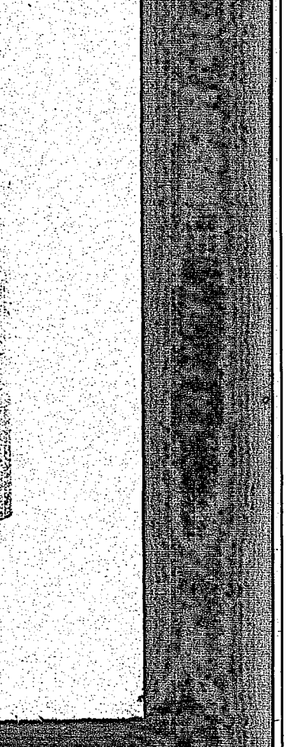
肺病の絶對療法 新發表會

色を白くするパック化粧

娘と妻と母 衛生と美容

陸軍中將校 熱血の座談會

貴切迫る!! 特大號の見落したら大變です。



正確なるニュースを強力短波で放送

臺灣放送協會が英語で

中支送信所の設備を利用

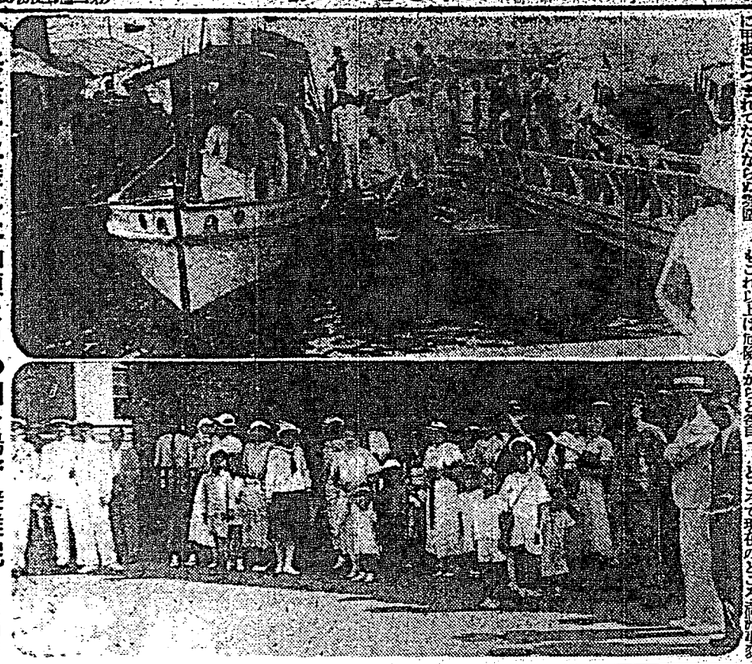
北支事變に關する帝國の公正なる態度をあまねく徹知し且つ正確なるニュースを全世界に報道せんために臺灣放送協會では近日中に強力短波による外國向（英語）放送を當分實施することに決定した、右は特殊なる設備を要し二日や三日で完備し得るものでなく相當大なる經費を伴ふため總督府では中支の内台共同經營の送信所の設備を利用して遞かに放送開始をはかることに方針を決定し二七日午後の閣議に諮る筈である

日吉山工務課長は現地に赴いた

對岸からの引揚子女

けさ慌しく着臺

基隆埠頭沸き返る



基隆に上陸した汕頭よりの引き揚げ避難民（上は船内にて十八日新町第一五九號基隆警察署警部補撮影）

【基隆電話】臺支のうちでも最も對日感情の惡化した汕頭、廈門、北支の風雲をそのままに反映させて次期に夥る海日一個の團子に我が在留邦人も遂に即應なる對策を講ずるに至つたがその汕頭からの引き揚げ邦人第一陣女子のみた第一船「西貢丸」が十八日未明基隆に入港して在住し現地の狀況を聽した、乘つた引き揚げ避難民は汕頭から二十六家族中内地人二十七名、本島人四十二名計七十九名、それに廈門からも内台人を交へた自發的な引き揚げ女子十二名が加はつて船中は沸き返る程の賑ひ、いづれも婦人、子供連れで中には八十二、九十七と云ふ老婦も交つて船に手をひかれたいけな幼兒は抱かれてケガンさうな顏で人々を眺めバスケット、風呂敷包はうづ高くデッキに甲板につまれてただならぬ雰圍氣を現はしさせる、朝鮮、殘月、淮外の同船船客に見る、聞く數々の風說は物騷は同盟としての他をあかすものばかりである、とかくする中に檢疫終了を待つて川添市長山下、助役以下市役所各課長らの世話役が檢疫船を物々しく警戒をして引き連れてのりこんで來る、東水上署長等が檢問の爲やつて來る、船中の避難婦人等は續々と增十組に引き揚げ民一同の身の振り方について調査が進められ內地人側の大部分は商船ソンテ及び市役所モーターで一足先に上陸、午前八時半檢疫濟船

に上陸した、本島人側並びに廈門の人々は本船と共に港內に入り第一埠頭に檢疫後上陸したがかねて待ちに待つた世話役、親類の出迎人で埠頭はかつて見ぬ賑ひの樣な騷ぎであつた

【基隆電話】汕頭外に於ける臺胞引揚船「西貢丸」は十八日午前八時半基隆に入港、船客は殆んど全部婦女子で、中には生後一ヶ月の嬰兒から八十二歳の老婆まで居り、船中は泣き叫ぶ子供の聲で騷然たる有樣であつた、船客は汕頭在住の臺胞二百七十名、廈門在住の臺胞二十六名、計三百名であつたが、船中で生れた嬰兒一名、船中で死んだ老人一名、差引三百名が乘船してゐた、船客は汕頭の狀況を次の如く語つた

汕頭は食糧飢饉

惡性な抗日を語る

當時と違つて表面的には別に何も直接危害は加へませんが子供に惡戲したりする事は毎日の樣で殊に今回は民衆ばかりでなく支那の役人がのり出してゐるのですから雰圍氣は惡く御話にならぬ程です、支那人の兵隊は八方ばかり市中に入りこんで海岸に嚴重な防備を施し不穩分子の上陸を嚴重に警戒してゐます、いつどんな事があるかわからぬのでおちついた氣持ではられずこの間臺南丸を待つ迄の一週間はまるで生きた心地もしませんでした、我等の引揚げで主人達はやつと足手まとひをとり拂つた事で御船客は皆ほつとした樣な表情で氷盛をして船内は歡聲はうづ巻くばかりに甲板につまれてただならぬ雰圍氣を現はしさせる、朝鮮、殘月、淮外の同船船客に見る、聞く數々の風說は物騷は同盟としての他をあかすものばかりである、とかくする中に檢疫終了を待つて川添市長山下、助役以下市役所各課長らの世話役が檢疫船を物々しく警戒をして引き連れてのりこんで來る、東水上署長等が檢問の爲やつて來る、船中の避難婦人等は續々と增十組に引き揚げ民一同の身の振り方について調査が進められ內地人側の大部分は商船ソンテ及び市役所モーターで一足先に上陸、午前八時半檢疫濟船に上陸した、本島人側並びに廈門の人々は本船と共に港內に入り第一埠頭に檢疫後上陸したがかねて待ちに待つた世話役、親類の出迎人で埠頭はかつて見ぬ賑ひの樣な騷ぎであつた

熱烈！愛國の赤誠

けさ七星郡民大會

台北州七星郡民大會は二十八日午前十時から郡下街庄協議會員、產業組合員、鄉紳、壯丁醫員、保正、愛國婦人會員、女子青年團等千五百餘名、來賓として河合七星郡守、櫻井林熊警察支所長、金城郡役所支配人等十林公會堂に參集して盛大、定刻中山北投庄長開會を宣し、皇恩遙拜、國歌合唱あつて、主催者として山下十林街長挨拶を述べ、「大國民の襟度を示せ」熊谷鄉軍七星分會長、「非常時に於ける我等の覺悟」蘇汝江代表、「國民の覺悟」謝內潮代表、「支那を懲かに知れ」石原十林代表、「世界最強の我國旗」池田北投代表、「酒を持つて待つ北支」殺阿松山庄代表の所感發表に次ぎ李外北街長立つて

我帝國は常に東洋永遠の平和を冀願し、至公至平、眞義對神に則り和衷協力を旨として臨むべき支那國民は大局を見るの明なく、排日侮日を繰返し國際條約以來數回に亘り不法暴擧を惹起しつつあるは誠に遺憾なり、此秋に方り、政府の斷乎たる決意を望むと共に我々七星郡民一同は協力一致以て其義局を打開し、帝國の使命を全うせん事を期す

との宣言文を朗讀、滿場の郡民指手裡に平山北投街長、音頭

決議文

一、吾人は時局重大なる折柄、日支交渉の平和を確立せんことを期す

二、吾人は國民の時局に對する認識を徹底統一し擧國協力以て万難なきを期す

と讀み上げ、續いて陸、海、外三大臣及關東軍司令官、北支駐屯軍司令官、第三艦隊司令長官列夫々激勵電報を發送のことに決し、附帶決議に入り郡內消防組より勇

支交渉を徹底的に解決し東洋永遠の平和を確立せんことを期す

二、吾人は國民の時局に對する認識を徹底統一し擧國協力以て万難なきを期す

と讀み上げ、續いて陸、海、外三大臣及關東軍司令官、北支駐屯軍司令官、第三艦隊司令長官列夫々激勵電報を發送のことに決議、附帶決議に入り郡內消防組より勇

古賀家の肉身相剋

法廷で黑白を爭ふ

遺言公正證書無效確認の訴へ

【基隆電話】故古賀三千人氏の遺產處分に關する遺言公正證書を巡る紛爭は遂に司直の活躍となり州廳事課では下條警官指揮の下に藤原此一氏と共に右公正證書の立會證人たる本島人協元興を召喚訊問した其の內容の眞僞如何、不實記載の證據に就き調査なる擧證を開始してゐるが二十八日基に古賀武雄氏は慣習、金子（係）、佐藤の三飛脚士を代理人として受遺者古賀千代子未亡人、古賀照雄並に立會證人にして遺言執行者たる藤原此一の三氏を相手どり遺言公正證書無效確認の訴を台北地方法院民事部に提起するに至り茲に古賀家の內身相剋も

暗闘は裁判に民事に其黑白を爭ふに至つた

原告側の言分は

公正證書による遺言書の作成は證人二人以上の立會を必要とし公證人の事生屋人は證人適格なき事は民法千六十九條千七十四條に徵して明白である、然るに本件の場合は立會證人は藤原此一氏と協元興の二名であり協元興は會社員の屬書の下に證人となり居るも事實協元興は公正證書作成人たる安田公證人の屬たる通訳である事は元來協元興は自會吉田公證人の通訳をしてゐたもので、昭和四年現在の安田氏が自會公證人役場を承繼すると共に引繼がれ安田氏の屬人たる通訳として一定の俸給を給してゐる事實に徵するも顯著である、從つて證人適格なきものとして本訴に及んだ次第である、勿論內容に付いても決別する疑問を有する日下調査中であり裁判上の手續は万事御任せしてはなりませんが證人の資格を缺いた儘の立會

臺灣軍極度に緊張

空軍遂に進發の報に

事變突發、戰火を根本的に解決し得る爲、軍事的手段を發動するの已むなきに至つた事は既報の通りであるが、軍事當局は豫ねて此の事あるを豫期し、事變勃發と同時に臺灣軍に對し極度の緊張を命じ、軍事行動を開始

家庭と婦人

落して割れた「西瓜が一番うまい

庖丁や加工は禁物

夏の味覺行脚(一)

（千疋屋　村上謹一）

西瓜は採取後の点から言つても味覺の点からいつても、年中實味されるものですが、特に暑さはれます。暑の果物の王は何と言つても

西瓜で

せう高價なメロンに比べて、これまた暑さ對策なもので、誰の口にも容易に入るので、五年位その需要が増大されてゐます。

西瓜のうまさは全く人工を加へない地にあるので、徒に「落して割れた西瓜が一番うまい」と言はれてゐる程に全然庖丁を加へないもの、加工しない西瓜が一番美味しい。それを砂糖をかけたり、水をかけたりその外色々の加工をして食べてゐるのは西瓜そのもの味を消してしまふので、西瓜の食べ方としては全く邪道です。よく鎌倉の海岸で、西瓜を切つて水をかけて賣つてゐるのを見かけますが、これは美味しくない西瓜を水で薄めて賣るのですから、どうも感心しません。塩をかけて一切つた西瓜にはまた水をかけてプンシやホーグで食べるの位間違つてゐるものもありません。

水蜜桃

も夏の果物として美味で、これのうまさは君も口にすんで水になる飲かい實質の甘味の强さにあるのです。ただこれを食べ方り方るのは邪道です。冷して庭をむいて食べるべきものです。丸て食べるのは天津桃といつて先の尖つた桃です。

水蜜桃は果汁そのものに強い甘味のあるものですから、庭のついたまま、外皮の細かい毛を取つてそのまま布巾にくるみ絞つて飲用するのですが、最も盛りの子供にもつてこいですから、いただいた水蜜桃が際山ある場合は天然果汁として飲用する方がよいでせう。

メロン

の味を言はれぬものですが八九月頃は一番味の悪い時ですから、この頃これを頂くのは野暮の骨頂でせう。それよりも安く美味しい西瓜を食べた方がよいでせう。

プラム

といふのがあります。これはスモモの改良されたもので、スモモの味を甘くしたもので、これも香りが高く甘味が强いので、非常に美味な果物で特に外人等は喜んで食べるものです。次に述べた

葡萄で

すが、これはスカット・オブ・アレキサンドリヤとかコードレスフエルド・コード等と、いろいろ種類は沢山にはあるが、なかく見た感じ、口にふくんだ感じは何ともいへない美味なものです。果物としては最も上級なものでせう。秋になると葡萄の本格的な季節になりますが、今はまだ暑氣のために、食慾を特に増進するやうな果物はない方がよいのです。

高價であり、大衆的でないので、一般にすすめるわけにゆきません。要するに夏の果物は特に加工したり庖丁を加へるのは禁物で、自然のままの形と味を賞び、冷やして召上るといふことが何よりも大切なことです。いやに通ぶつて色色加工していただくのは眞實に果物を賞味するものではありません。

（千疋屋　村上謹一）

暑になると、ガスの使用量が減りさうなものだが、事實はこれに反して、お湯を沸したりいろ〳〵で、かべつで、うつかりすると經濟にひどく響られない、それに點火を多く使はないやうになるので、自然ガスの使用量が増えるもその一原因一処で、ガスは一種の臭氣を持つてゐるが、無臭されただガスには、臭氣はないのが普通であるが、ガスに臭氣ないとすれば、万一漏れてゐても、それに氣付かぬため危險千万、從つて、漏れてゐたり、火口からガスが出てゐることを直ぐに感じることが出來るやうにとの爲ひとつつけるのである、あの一種獨特の臭氣はガスの臭ひではない

御存知ガスの臭ひ

健康兒讀本

醫學博士　竹内茂代

第六回　消化不良

女：子供は、一食とらないとかなり疲勞するものです、女中任せの家とか、多忙な母親は子供が遊びにきぎれて食事をしなかつたり、或ひは、十分に食べなかつたりすると、食べないんだからいいだらうと、面倒くさがつてお腹を片附けてしまふことがよくあります、これでは當然、食物の分量が不足のために、空腹を感じるやうになり、そこでお菓子、煎餅といふことになります、結局、消化不良を起し、やがては食物がとれなくなり、最後に榮養不良に陷ります、食べるべき時に食べない場合には母親はよくその原因をたしかめなければいけません、そして、健康體ならば、どうしても必要な分量だけは食べさせるやうに努めることが大切です

自殺一歩前青年の感激

由井三郎（京都）

拜啓　御かいかわらずキングオブキング服用の日足らずで夢の如く疲勞が治り遊通る樣に頭は峰くなりました（中略）生〇器神經衰弱の診斷で相當注射にも通ひました、全身の疲れは酷く神經過敏で三月間學校も休みました（中略）生る氣が頭の加減で堪まらなく物憂く遊ぶ氣なく睡眠に用いてるアダリンの藥劑量を考へたのも度々でした（中略）キングスは普通のホルモン藥なら僕は手を出さなかつたでせうが、ホルモンの上を行く第百の强精强壯藥なのを賴みに服用しました（中略）然し服むまで早い確實な實力を最初と思はず吸收して（中略）暫らく服用を續けて此上の喜びを感ずる計りです。

四十夫婦の返り咲き

成木知明（横濱）

（前略）四十五の會社員（中略）キングオブキングスを服む迄新聞を見ても眼は疲れて細かい所は迚も讀めません、五年來めつきり何となく腰は痛く、何度に同が疲り抜ける樣に感は覺く（中略）ズーと疲に寄り付く元氣は無く、一杯呑めば二代の盛りも鎭まりの遊びをとし〳〵やつて翌日ケロリと會社に出る精力絶倫家の同僚が羨ましく（中略）奥と相談づくで長く强壯榮養藥を服み五十回注射を打つた後もありました（中略）奥れを翌日に持ち越さない元氣精力を、メキ〳〵キングスで恢復し（中略）飲んだ後は三ヶ月續けてキングスを是非服むとに勧めて呉れます。

初老血氣青年代に逆行

寺村政市（神戸）

廿世代の執い疲勞が溜つてか老人でもない五十頭は日一日精が拔たくつと痛は云ふことを利かず人生が寂しくなりました（中略）今からこれでは益世業行の溢い强精藥を服みました（中略）キングオブキングスに驚嘆たのは新く生月服でした（中略）顔はテラ〳〵光りとつもなく體が利いて疲勞り疲れないし白髪はプツリ止まりました（中略）暮は初經痛來るのに薬はづれの際力に驚まれ少し思案の前に照てをります（中略）引續き五円分二箱送つて下さい（後略）

七十で出直す意氣は壯年

山口芳太郎（東京）

（前略）六十七後の步體にキングオブキングスはグン〳〵效いて（中略）停疾知と同居して腰れてゐる老妻を腰に呼び老夫婦若い昔を偲ひ生活を始めた位です（中略）引續いて服かさずキングスを服用してをります（中略）服用前はトンチンカンな事許經ると考へかと子供に笑はれ自分もその氣でをりました（中略）ロイヤルスの心配も年故の疲えを感つてゐた處で今は手足も自由に利きます（中略）繰り返した元氣で廃てゐる隣隊代理店を早速申込ます（後略）

人生を樂しむ精力の正體

初老夫婦血氣の樂しみが實り

神經衰弱青年の煩悶即決

隱居——積極の新生活へ突進

享樂なければ人生枯木の如く、體、利かなければ金あつて無きも同じ

回春の力

ホルモンの十倍

一昨二年若返り榮養しく效くと男はれるホルモンは、其實來醫藥用出來る精力を藥劑者に望むにはホルモン十X（足りない物）の發見がなければ駄目であると

帝大教授新方博士

は發表してゐる、動物に移植面に效いて人體に左程でないのはホルモンは肥滿で變化するからである、卵あれ一般と報告もしてゐる、卵あれ一般ホルモンは注射火に利害がある、

斯道の大先輩羽太博士

は動物腺から死精を含んだホルモンを服用するから効力が現ける と斷定してホルモンとなる前の此生た原素を摘へる發見をして完成したキングオブキングスは精力發回の最新發を誇んである

本藥を服むとそれが直に下腹に陷て直接根本の部位を刺激する强精の原理に基つてゐる、部位の徒來に應じ初老、老衰の下腹一面に特別な活動を起して生命力を再生させる、此驚異的新發見なホルモンを身體に補給させ衰弱の場を證明確に新しく發る人れるから

遺精、夢精、早漏

のある青年の神經衰弱、治腰を早く完全に終る、御發見へ本藥にホルモンの十倍精力的に生命を與しめるように する、人生の活潑にバックと赤い灯を点ずるのである

御註文は發賣元直接

用いて四五日も過ればお御效の安いのも必ずお解付きになります

二八〇錢　入金五円　一〇〇錢入金二円　六〇〇錢入金十円です

現在東京度數の方へ御伺するため一般藥店に置いてありません、お申込みは發賣元へ代金引換か振替か直接が宜しい（送料各十五錢）即日お手元へ届くように發送します

東京市芝區愛宕町十二ノ六

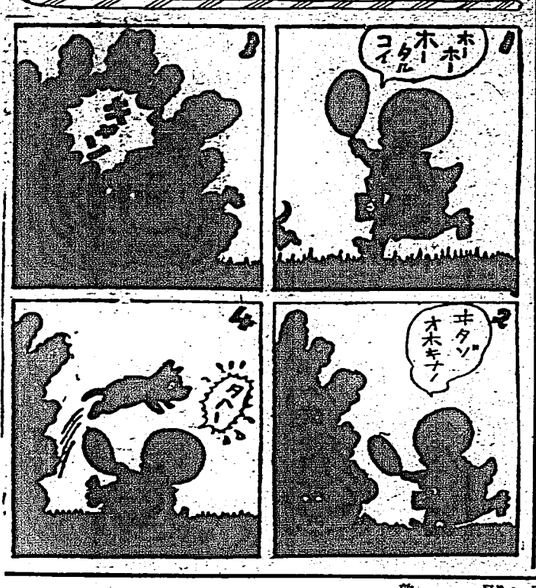
發賣元　春泉堂

人生出直す近徑

（醫學博士）　羽太鋭治（著）

キングオブキングスは死んだ氣分を内部に與へて人生を再出發する目的に發見した新强精榮養劑である、若返りの本根と思はれるホルモン注射はその副作の煩雑で止ると共に、その副作に費はれる、最はすつかり動物腺で出來上つたホルモンを使用するから效く間違に調劑の效果をなげるから安心である。

漫畫コーナー　52　ナナテイン・コリヤア　作ニテツハ・キサカナ



國定忠次（12）

（四）

長谷川伸作
岩田專太郎畫

（上回）

慶寺（三）

「この野郎ア」

と、鳴きしぶんで、最初に斬付けた御八は、目さき忠次郎から一蛙も遠く、ばさりッと、古疵に切りつけた。

「ていッ」

二番は武者の助、これも又、忠次郎からは遠い處を切り込んで、

「ていッ、ていッ」

と、自分だけ獅子奮迅だ。

忠次郎は殺れ殺の滝の狂も勁いばかりの間合り附点をうしろの處に、長脇差に手をかけただけ。

「逃り、逃り」

と、斬りたてた、この手段も飯盛行中、會得したもの一つで、ある。

斬られて御八も武者之助も、斬天に血を沸きらせ、

「オのれ生めッ、ただ生しねか野郎ア」

と、御八が、又しても古疵に切りつけた。

忠次郎はにッこり笑つた、が、眼が笑んで、白い歯が外にみえただけのこと。

と、云つてみた声の搦り方が憩い、自分ながら、意久地なく感じた。

こゝなで、追つかけて、一期の斬殺、

「おう、十郎兵衛」

いつも啖呵專門がやッと出た瀧蔵、思い出した術がある。

歐米映畫名監督七人の素描

☆……◇

ルネ・クレール

（英ロンドン・フキルム）

「巴里の屋根の下」「巴里祭」等の巴里の庶民生活を優しい氣持で描いたものと、「自由を我等に」「最後の億万長者」等の世の中の不満を痛烈に諷刺したものと、二種類の作風を示したクレールの作品の系統は二つに分れてゐる。この巴里生れの洒脱な監督は、英國ロンドン・フキルムに招かれ「巴里祭西へ行く」を作り、二回目には「二人乗りの自轉車」というのを監督するといふ。「生きてゐるモレア」の主役ノエル・カワードがクレールと組むが今度はどんな傑作な氣想で映畫を發するであらう。

◇……◇

ジャック・フェデ

（英ロンドン・フキルム）

「外人部隊」「ミモザ館」「女だけの都」をフランスで作つたフェデもクレールに次いでロンドンフキルムに招かれた。何れもトーキーとして第一級の傑作を出してゐるフェデの振であるから期待されるが今までと氣向を変へた「武器のない騎士」といふ傑奇小説的な映畫を完成した。ディトリッヒとロバート・ドーナット共演といふ豪華な顔ぶれ。

◇……◇

ジョセフ・フォン・スタンバーグ

（英ロンドン・フキルム）

老いたりとは云へスタンバークは未だ何かしさうな氣がする。この人もロンドン・フキルムに迎へられ「アイ・クローディアス」というローマの歴史家クローディアスの物語をテヤールス・ロートン、マール・オベロンで撮つてゐる。「モロッコ」や「間諜X27」の音を知る人々には、やはりスタンバークに元氣を取り戻させたいと思ふであらう。

【寶塚カット】は「失はれた地平線」（コロムビア映畫）を監督中のフランク・キヤプラ（左）とキヤメラマンのジヨゼフ・ウオーカア（右）

變化性朝顏に就て（一）

（園藝）

東大教授農博　宗正雄

最近朝顏觀賞界は非常に隆盛を極めて來た。從來の朝顏は大輪咲きの一手に向ふ樣であつたが、最近は變化咲きの方に人氣が集まつて來た。變化咲きといふのは、大輪咲きの朝顏の花の形が變つたものを指すのである。變化咲きの朝顏は、從來の大輪咲きの朝顏に比べて、花の大きさは小さいが、花の形が變つてゐるので、觀賞上の興味は大輪咲きの朝顏よりも遙かに多いといふ點から、變化咲きの朝顏が非常に喜ばれるやうになつて來たのである。

變化咲きの朝顏の種類は、獅子、鹿角、菊葉、菊花、林風葉其他多數の形があり、葉色にも實に色々なものがあり、絞咲、覆輪、打込み、雪後の朝、牡丹、獅子、打込み、雪後の朝、牡丹、獅子、打込み、雪後の朝、牡丹、獅子

臺灣日日新報

本日夕刊共十二頁

編輯兼發行人　佐々木喜善

臺北市榮町四丁目四番地　電話番號北一〇八五番
臺灣日日新報社　印刷所　發行所

第壹千二回營業（公債）
昭和十二年六月二十日現在
第一回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第六回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第七回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第八回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第九回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第十回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第十一回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第十二回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第十三回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第十四回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第十五回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第十六回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第十七回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第十八回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第十九回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二十回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二十一回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二十二回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二十三回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二十四回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二十五回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二十六回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二十七回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二十八回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二十九回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三十回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三十一回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三十二回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三十三回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三十四回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三十五回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三十六回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三十七回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三十八回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三十九回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四十回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四十一回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四十二回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四十三回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四十四回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四十五回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四十六回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四十七回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四十八回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四十九回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五十回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五十一回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五十二回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五十三回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五十四回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五十五回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五十六回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五十七回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五十八回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五十九回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第六十回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第六十一回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第六十二回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第六十三回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第六十四回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第六十五回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第六十六回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第六十七回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第六十八回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第六十九回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第七十回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第七十一回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第七十二回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第七十三回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第七十四回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第七十五回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第七十六回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第七十七回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第七十八回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第七十九回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第八十回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第八十一回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第八十二回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第八十三回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第八十四回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第八十五回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第八十六回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第八十七回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第八十八回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第八十九回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第九十回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第九十一回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第九十二回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第九十三回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第九十四回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第九十五回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第九十六回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第九十七回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第九十八回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第九十九回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百一回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百二回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百三回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百四回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百五回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百六回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百七回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百八回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百九回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百十回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百十一回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百十二回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百十三回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百十四回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百十五回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百十六回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百十七回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百十八回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百十九回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百二十回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百二十一回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百二十二回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百二十三回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百二十四回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百二十五回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百二十六回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百二十七回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百二十八回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百二十九回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百三十回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百三十一回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百三十二回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百三十三回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百三十四回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百三十五回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百三十六回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百三十七回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百三十八回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百三十九回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百四十回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百四十一回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百四十二回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百四十三回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百四十四回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百四十五回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百四十六回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百四十七回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百四十八回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百四十九回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百五十回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百五十一回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百五十二回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百五十三回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百五十四回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百五十五回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百五十六回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百五十七回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百五十八回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百五十九回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百六十回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百六十一回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百六十二回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百六十三回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百六十四回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百六十五回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百六十六回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百六十七回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百六十八回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百六十九回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百七十回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百七十一回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百七十二回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百七十三回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百七十四回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百七十五回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百七十六回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百七十七回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百七十八回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百七十九回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百八十回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百八十一回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百八十二回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百八十三回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百八十四回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百八十五回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百八十六回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百八十七回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百八十八回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百八十九回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百九十回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百九十一回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百九十二回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百九十三回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百九十四回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百九十五回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百九十六回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百九十七回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百九十八回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第百九十九回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百一回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百二回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百三回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百四回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百五回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百六回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百七回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百八回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百九回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百十回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百十一回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百十二回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百十三回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百十四回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百十五回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百十六回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百十七回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百十八回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百十九回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百二十回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百二十一回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百二十二回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百二十三回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百二十四回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百二十五回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百二十六回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百二十七回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百二十八回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百二十九回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百三十回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百三十一回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百三十二回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百三十三回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百三十四回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百三十五回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百三十六回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百三十七回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百三十八回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百三十九回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百四十回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百四十一回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百四十二回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百四十三回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百四十四回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百四十五回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百四十六回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百四十七回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百四十八回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百四十九回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百五十回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百五十一回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百五十二回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百五十三回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百五十四回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百五十五回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百五十六回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百五十七回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百五十八回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百五十九回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百六十回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百六十一回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百六十二回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百六十三回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百六十四回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百六十五回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百六十六回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百六十七回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百六十八回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百六十九回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百七十回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百七十一回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百七十二回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百七十三回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百七十四回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百七十五回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百七十六回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百七十七回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百七十八回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百七十九回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百八十回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百八十一回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百八十二回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百八十三回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百八十四回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百八十五回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百八十六回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百八十七回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百八十八回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百八十九回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百九十回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百九十一回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百九十二回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百九十三回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百九十四回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百九十五回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百九十六回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百九十七回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百九十八回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第二百九十九回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百一回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百二回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百三回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百四回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百五回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百六回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百七回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百八回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百九回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百十回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百十一回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百十二回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百十三回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百十四回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百十五回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百十六回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百十七回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百十八回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百十九回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百二十回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百二十一回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百二十二回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百二十三回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百二十四回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百二十五回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百二十六回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百二十七回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百二十八回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百二十九回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百三十回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百三十一回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百三十二回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百三十三回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百三十四回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百三十五回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百三十六回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百三十七回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百三十八回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百三十九回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百四十回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百四十一回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百四十二回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百四十三回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百四十四回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百四十五回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百四十六回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百四十七回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百四十八回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百四十九回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百五十回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百五十一回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百五十二回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百五十三回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百五十四回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百五十五回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百五十六回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百五十七回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百五十八回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百五十九回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百六十回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百六十一回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百六十二回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百六十三回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百六十四回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百六十五回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百六十六回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百六十七回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百六十八回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百六十九回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百七十回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百七十一回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百七十二回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百七十三回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百七十四回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百七十五回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百七十六回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百七十七回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百七十八回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百七十九回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百八十回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百八十一回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百八十二回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百八十三回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百八十四回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百八十五回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百八十六回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百八十七回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百八十八回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百八十九回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百九十回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百九十一回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百九十二回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百九十三回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百九十四回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百九十五回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百九十六回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百九十七回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百九十八回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第三百九十九回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百一回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百二回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百三回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百四回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百五回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百六回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百七回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百八回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百九回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百十回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百十一回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百十二回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百十三回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百十四回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百十五回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百十六回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百十七回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百十八回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百十九回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百二十回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百二十一回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百二十二回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百二十三回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百二十四回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百二十五回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百二十六回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百二十七回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百二十八回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百二十九回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百三十回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百三十一回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百三十二回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百三十三回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百三十四回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百三十五回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百三十六回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百三十七回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百三十八回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百三十九回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百四十回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百四十一回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百四十二回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百四十三回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百四十四回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百四十五回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百四十六回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百四十七回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百四十八回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百四十九回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百五十回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百五十一回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百五十二回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百五十三回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百五十四回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百五十五回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百五十六回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百五十七回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百五十八回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百五十九回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百六十回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百六十一回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百六十二回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百六十三回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百六十四回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百六十五回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百六十六回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百六十七回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百六十八回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百六十九回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百七十回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百七十一回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百七十二回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百七十三回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百七十四回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百七十五回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百七十六回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百七十七回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百七十八回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百七十九回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百八十回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百八十一回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百八十二回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百八十三回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百八十四回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百八十五回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百八十六回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百八十七回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百八十八回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百八十九回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百九十回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百九十一回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百九十二回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百九十三回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百九十四回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百九十五回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百九十六回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百九十七回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百九十八回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第四百九十九回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百一回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百二回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百三回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百四回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百五回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百六回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百七回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百八回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百九回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百十回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百十一回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百十二回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百十三回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百十四回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百十五回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百十六回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百十七回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百十八回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百十九回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百二十回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百二十一回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百二十二回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百二十三回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百二十四回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百二十五回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百二十六回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百二十七回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百二十八回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百二十九回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百三十回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百三十一回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百三十二回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百三十三回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百三十四回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百三十五回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百三十六回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百三十七回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百三十八回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百三十九回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百四十回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百四十一回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百四十二回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百四十三回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百四十四回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百四十五回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百四十六回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百四十七回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百四十八回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百四十九回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百五十回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百五十一回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百五十二回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百五十三回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百五十四回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百五十五回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百五十六回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百五十七回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百五十八回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百五十九回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百六十回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百六十一回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百六十二回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百六十三回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百六十四回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百六十五回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百六十六回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百六十七回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百六十八回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百六十九回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百七十回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百七十一回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百七十二回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百七十三回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百七十四回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百七十五回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百七十六回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百七十七回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百七十八回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百七十九回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百八十回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百八十一回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百八十二回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百八十三回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百八十四回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百八十五回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百八十六回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百八十七回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百八十八回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百八十九回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百九十回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百九十一回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百九十二回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百九十三回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百九十四回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百九十五回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百九十六回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百九十七回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百九十八回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第五百九十九回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第六百回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第六百一回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第六百二回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第六百三回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第六百四回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第六百五回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第六百六回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第六百七回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第六百八回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第六百九回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第六百十回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第六百十一回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第六百十二回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第六百十三回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第六百十四回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第六百十五回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第六百十六回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第六百十七回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第六百十八回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第六百十九回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第六百二十回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第六百二十一回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第六百二十二回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第六百二十三回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第六百二十四回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第六百二十五回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第六百二十六回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第六百二十七回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第六百二十八回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第六百二十九回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第六百三十回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第六百三十一回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第六百三十二回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第六百三十三回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第六百三十四回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第六百三十五回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第六百三十六回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第六百三十七回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第六百三十八回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第六百三十九回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第六百四十回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第六百四十一回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第六百四十二回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第六百四十三回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第六百四十四回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第六百四十五回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第六百四十六回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第六百四十七回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第六百四十八回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第六百四十九回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第六百五十回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第六百五十一回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第六百五十二回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第六百五十三回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第六百五十四回拂込金　壹圓　全額拂込濟
第六百五十五

支那は遂に敗へないか

〝抗日救國〟は〝愛久抗日亡國〟

〝支那を膺懲せん〟とは三週間即までの日本國内における國民的合言葉であつたが、此の同じ句を、吾等にかへし、全く正反對の内容と持たせやうでは、三週間即ちそれ以上かゝるを覺悟ぬのである。或ほど三週間までの支那は、外形的には國内統一に散歩を進め、排抗日の聲調の上に、民心を煽らせ、新支那の姿らしいものを作り上げ、新支那の姿らしいものを作り上げ、新支那の知識じさせられた感さに、一度の北支事變起り、日支間の國交が斷絶をやや、一も、一もなく今くの無制限に陥り、上の言ふ所、下これをなすず、甲論乙駁、支離滅裂、殆ど支那の何処に中心があり、何人が統御の衝に在るを疑ひぬのである。

二

このために國際聯盟理事二十九人との約束も、單に紙上だけのもの化し、折から我方の事件不擴大主義や現地解決方針も、一向に先方（徳國をす、我が方で示す誠意と解しとい、却て先方に侮りを招くさせる機縁となつたかの觀ありいくら極東の平和確念せんとしても、聯盟國家を許さぬ事情に在るため、我に對する事情に立ち到らしめた。殊に、頻々として昌景に對する厭惡感を以てい、爰に我が駐兵司令官の自發的行動となり、直に自發行動に移つたのである。在來の様な、第三者の行動を殺くるに於ては、日本軍が高價重大な犠牲の下に得つゝある、支那側に於てもその分、高知してある事から永い間の實績たる「戰迹」を一朝鏡に、依然抗戰を續けるには、甚く困られぬと見え、日本軍をして堪忍の緒を切らしむるに至つた。この結果、北支に於ける聯盟の勢力如何を新建設的に示すか、今日迄支那をどの位縄ひたか知れない。それも、大局を觀ご明かあつて將來を警戒し、能新した上の每日や祈日なら先ず抵抗的であるが、何等の見透しも無く解釋もなく、唯盟に恒いから設置する、而百くないから抵抗する――では、徒らに身を鉄火の前に曝さむ国家や民人に累を及ぼすのみではない。此の事實は北洲事變當時に一致を示してゐる。殊に一支那軍隊中には無智であり頑迷の徒が多いといふ事は承知してゐたが、事実かく迄であるとは想はなかつた。此の点だけでも聯盟各國民に、今後絶にはつきり支那を見直さねばならぬのである。

◎祈日や、每日を、單に國内統一政策の樹立に努るなら、それはそれとしては勿論よいが、偶りにも國際の强大國を首腦として抗爭しようといふ敵意を抱くに至つては、國家の結果は一として支那を利する事なく、皆を國際的に失ひ、餘り得ない國民を其都度失ふ山ありもしない國民を其都度失ふ山ありもしない國民を其都度失ふ山ありもし

自給自足は ヒマ油の 是非共臺灣で

栽培法次第で有利な作物
一番ケ瀬農務課長談

臺灣拓殖の大西部務部長が臺灣に於ける殖産施設に關し「臺灣では土地経濟上から見て蓖麻の如き不利合な作物を作ることは不適當で、これは宜しく滿洲の如き廣大な土地を持つところでこそ大規模に經營すべきものである」との意を洩らしたのに對し臺灣總督府の山本内務部長は右の如き點へ方を大いに適當とし「斯る國家的に重要なるものはドシ〳〵作る必要がある」と力説したが、更に臺灣に於ても本作物の重要性に鑑み、一部ケ瀬農務課長談を以つて左の如く發表した

僅かに飛行機を動かす場合を考へてみるに、ガソリン一〇に對しヒマシ油一の割合に必要な品物であるし、從來は其の大部分を輸入に仰いでゐたのである、大體臺灣總督府としてもその代用品を出來るだけ多く研究をやつてゐる譯だが、矢張り天然の蓖麻子油に優るものはない、從つて臺灣に於ても蓖麻子油の增産を圖ることは必要であるし、又臺灣は蓖麻子油を製造するに適當な土地柄であるから、之が增産を圖ることは決して不利益ではないと思ふ、從來臺灣に於ても蓖麻子油の增産を圖つたことがあるが、其の時は價格が安かつたので、農民は之を作らなかつたのである、然し今日では事情が變つてゐ